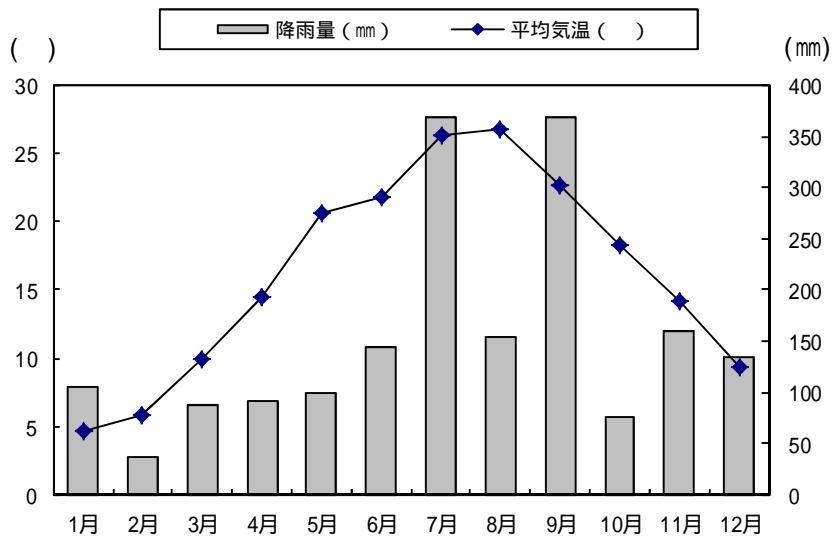


1

一 行政区画・土地・气象

月別平均気温、降水量（平成27年）



1 市域の変遷

(教育委員会事務局文化財保護課)

厚木市は、相模川中流西岸に位置し、西部に広がる丹沢山地、洪積台地及び沖積平野の「三段構えの地相」と呼ばれる肥沃な地域にあって、約9千年前の縄文時代早期には人々が定住した。弥生時代以降市域各所に集落が形成され、4～7世紀には有力者の墓である古墳も築造された。やがて律令体制に組み込まれ、国郡制のもと、市域は愛甲郡・大住郡に属した。その後武士が台頭し、市域にも愛甲氏・本間氏・荻野氏などの武士団が活躍し、愛甲荘・毛利荘などの荘園も成立し、鎌倉時代にも幕府の中核で活躍する愛甲季隆や毛利季光、本間一族などの愛甲武士の名がみえる。また、仏教が伝播、浸透し、寺院が各地に建造された。

「あつぎ」の地名が資料に見えるのは、南北朝時代の建武5年(1338)、臨濟宗の僧夢窓疎石から足利尊氏の執事高師直宛ての書状に「相州厚木郷」とあるのが初見である。

「あつぎ」の地名の由来は、木材の集散地を意味するアツメギ(集め木)から変化したという説や、アイヌ語のヤオロケシ(寄木)から付けられたとも言われているが、定説とはなっていない。

北条5代の支配を受けた戦国時代を経て、天正18年(1590)徳川家康の関東入国後、江戸時代の市域には、幕府直轄領のほか旗本領や大名領として細分化された支配体制が敷かれた。江戸時代の厚木村は、相模川船運の中継地や大山への街道の宿場町・商人町として発達し、繁栄を極めていた。天保2年(1831)に来遊した渡辺崋山は、厚木の盛んな様子は都と異ならないと感嘆した。

明治維新には、幕府領が蕪山県、旗本領は神奈川県に入り、明治2年には一部が荻野山中藩領に編入された。明治4年7月、廃藩置県によって、荻野山中藩・烏山藩はそのまま県となり、荻野山中陣屋にも県庁が置かれた。同年11月には市域は足柄県、明治9年には神奈川県へと編入された。明治22年には市町村合併によって、江戸時代の36か村から、厚木町、南毛利村など1町12か村にまとまった。

大正12年の関東大震災では市域南部を中心に大きな被害を受けたが、復旧、復興めざましく、昭和2年には小田急線の開通により相模厚木駅(昭和19年、本厚木駅へ改称)が開業し、養蚕や鮎漁などを主要な産業として発達した。

昭和30年2月1日、厚木町など1町4か村が合併し厚木市となった。その後同年7月、昭和31年9月に残り3か村を編入し現在に至る。昭和43年東名高速道路厚木インターチェンジの開設は、首都圏南西部における陸上交通の要衝として、本市の産業経済の発展に画期的な影響を及ぼした。

昭和50年代後半からは、森の里を中心とした研究開発型企業の立地や業務・サービスなどの産業も集積され、多機能を有する都市として成長した。平成14年4月には、特例市として新たな第一歩を踏み出し、平成27年2月1日に、市制60周年を迎えた。

現在、厚木市は、豊かな自然環境やまちのにぎわいなどを大切に、「元気あふれる創造性豊かな協働・交流都市 あつぎ」を将来都市像と定め、未来に向かって持続可能な発展を続け、市民一人一人の個性が輝き、明るく元気で幸せに暮らすことができる、快適で利便性の高いあつぎの創造を目指している。

年 月 日	事 項	面 積	人 口
昭和30年2月1日	厚木町、南毛利村、睦合村、小鮎村、玉川村にて合併市制施行	56.50 km ²	31,295 人
昭和30年7月8日	相川村、依知村を編入	74.90 km ²	39,409 人
昭和31年9月30日	荻野村を編入	92.69 km ²	44,652 人
昭和35年10月1日	国勢調査、国土地理院調査による	92.84 km ²	46,239 人
昭和46年9月1日	愛川町との境界を変更	92.86 km ²	88,330 人
昭和50年5月1日	伊勢原市との境界を変更	92.86 km ²	106,923 人
平成2年9月1日	国土地理院調査による	93.83 km ²	196,487 人
平成26年10月1日	国土地理院調査による	93.84 km ²	225,166 人

2 位置及び地勢

(都市計画課)

方位	経度	地名	方位	緯度	地名
極東	東経 139° 22 45	下依知	極北	北緯 35° 31 41	上依知
極西	東経 139° 13 42	七沢	極南	北緯 35° 23 41	戸田

(注) 緯度・経度は、世界測地系(日本測地系 2000)

地名	東経	北緯	海拔
市庁舎(中町 3-17-17)	139° 21 44	35° 26 34	20.3m

(注) 緯度・経度は、世界測地系(日本測地系 2000)

方向	東西	南北
距離(km)	13.76	14.71

(企画政策課)

厚木市は、神奈川県中央に位置し、西は大山を境に秦野市、西から北にかけて愛甲郡清川村、愛川町に、北から東にかけては相模川をはさみ相模原市、座間市、海老名市、高座郡寒川町に、また南は平塚市、伊勢原市と6市2町1村に接している。

地勢は西北から東南に緩やかに傾斜し、西部及び西北部は山岳地帯で複数の小山脈が南北に走っている。特に、西部においては大山がそびえ、丹沢山塊へと連なっている。

市の東部は、遠く富士五湖の一つである山中湖に源を発する相模川の清流が南北に貫通し、これに併流する中津川と小鮎川の流域に平野が開けている。東西 13.76 キロメートル、南北 14.71 キロメートルの扇形に近い地形で、面積 93.84 平方キロメートルを有している。

市街地は、三河川の合流点の右岸に位置し、市街地を東西に横切る小田急電鉄を利用し、新宿まで約 50 分、また横浜までは小田急電鉄及び相模鉄道を利用し約 40 分の距離にある。

また、東名高速道路をはじめ国道 246 号、129 号、412 号、小田原厚木道路、さがみ縦貫道路等が整備され、交通の要衝としての地理的条件にも恵まれている。

3 主要山塊及び地高

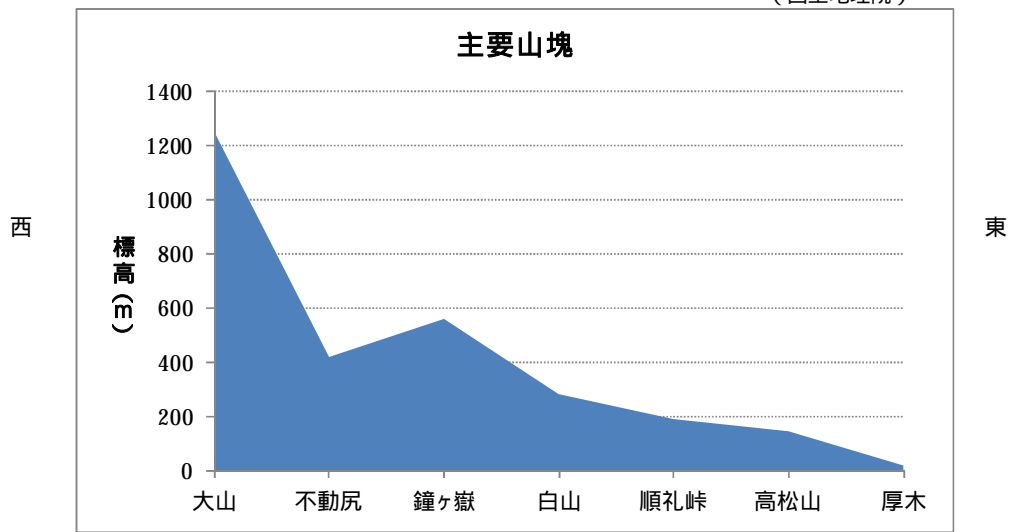
主要山塊

(国土地理院)

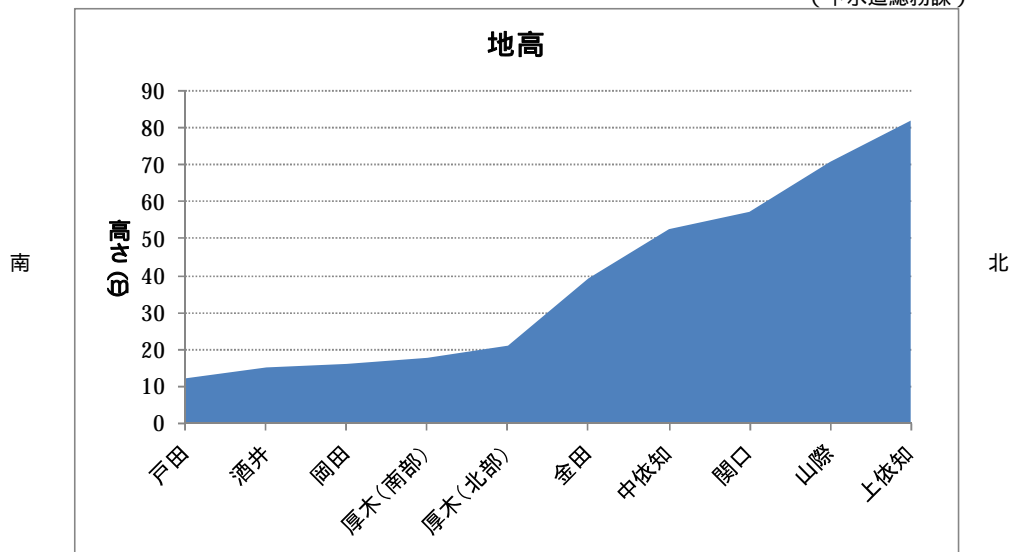
地名 (西~東)	大山	不動尻	鐘ヶ嶽	白山	順礼峠	高松山	厚木
標高 (m)	1252	420	561	283.8	191.8	146.4	20

(注) 国土地理院ホームページ参照

(国土地理院)



(下水道総務課)



4 地区別面積

(単位 km²) (平成27年4月現在) (都市計画課)

計	厚木	依知	睦合	荻野	小鮎	玉川	南毛利	相川	緑ヶ丘	森の里
93.84	3.597	13.955	10.195	17.273	13.376	16.196	10.377	6.316	0.518	2.027

(注) 厚木市全体の面積は、平成26年10月1日の国土地理院による全国都道府県市区町村別面積調の数値

(注) 内訳の合計とは一致しません。

5 地目別土地利用状況

(単位 ha) (平成27年4月現在) (都市計画課)

都市計画区域	計	田	畑	宅地	山林	河川・水面 ・水路	荒地・海浜 ・河川敷
計	9,383.0	540.5	795.2	4,588.5	2,636.8	174.5	647.5
市街化区域	3,173.0	7.5	117.2	2,840.6	161.5	5.8	40.5
市街化調整区域	6,210.0	533.0	678.0	1,747.9	2,475.3	168.7	607.0

(注) 出典：平成22年度都市計画基礎調査（ただし、厚木都市計画区域区分の変更 県告示第590号を反映）

(注) 全体面積は、内訳の合計とは一致しません。

(注) 全体面積は、平成26年10月1日の国土地理院による全国都道府県市区町村別面積調の数値とは一致しません。

6 用途地域別面積

(平成27年4月現在) (都市計画課)

種別	面積 (ha)	構成割合 (%)
計	約3,193	100.0
第一種低層住居専用地域	約404	12.6
第一種中高層住居専用地域	約555	17.4
第二種中高層住居専用地域	約41	1.3
第一種住居地域	約734	23.0
第二種住居地域	約188	5.9
準住居地域	約44	1.4
近隣商業地域	約71	2.2
商業地域	約103	3.2
準工業地域	約497	15.6
工業地域	約343	10.7
工業専用地域	約213	6.7

7 主要河川

(平成27年4月現在) (河川ふれあい課)

河川	県下流路総延長 (km)	市内流路総延長 (km)	県内流域面積 (km ²)
相模川水系	131.7	63.3	672.97
相模川	55.6	16.4	672.97
玉川	8.0	8.0	38.30
小鮎川	13.8	10.0	50.01
荻野川	8.9	8.9	18.77
中津川	32.8	7.4	143.42
細田川	1.0	1.0	2.40
恩曾川	7.2	7.2	12.39
山際川	2.0	2.0	4.21
善明川	2.4	2.4	1.90

8 気象の概況（その1）

（危機管理課）

年次・月別	気温（℃）					相対湿度（％）
	平均	最高気温	当該日	最低気温	当該日	
平成23年	15.3	38.2	8月18日	-6.4	1月31日	70.3
24年	14.9	36.8	7月17日	-6.6	2月3日	71.3
25年	15.6	38.1	8月11日	-5.6	1月4日・2月26日	63.5
26年	15.1	37.5	7月24日	-5.5	2月11日	69.8
27年	16.3	36.5	8月7日	-6.2	1月2日	-
1月	4.6	14.9	1月6日	-6.2	1月2日	-
2月	5.9	19.7	2月23日	-1.5	2月14日	-
3月	9.9	20.6	3月31日	1.2	3月24日	-
4月	14.5	24.6	4月28日	2.1	4月8日	-
5月	20.7	30.5	5月27日・5月31日	9.7	5月11日	-
6月	21.7	29.1	6月25日	13.8	6月6日	-
7月	26.3	35.5	7月21日	18.8	7月5日	-
8月	26.8	36.5	8月7日	17.2	8月26日	-
9月	22.7	31.5	9月2日	16.0	9月30日	-
10月	18.4	28.3	10月4日	8.0	10月26日	-
11月	14.2	23.6	11月17日	3.0	11月28日	-
12月	9.3	24.0	12月11日	-0.7	12月28日	-

（注）相対湿度は、平成27年から湿度観測機器を撤去したため観測データはなし

気象の概況（その2）

（危機管理課）

年次・月別	風			降雨量（mm）		
	最大風速(m/s)	風向	当該日	総量	最大降雨量	降雨日
平成23年	15.4	南南東	9月21日	1,846.5	178.0	9月21日
24年	14.1	南南東	9月30日	2,011.0	110.0	6月19日
25年	12.3	南南東	9月16日	1,639.5	170.5	4月6日
26年	11.7	北北西	2月8日	1,885.5	176.0	6月6日
27年	18.9	南南西	10月2日	1,828.0	119.0	7月16日
1月	8.7	西北西	1月17日	104.5	24.5	1月15日
2月	17.1	北西	2月13日	37.5	13.0	2月23日
3月	15.2	北	3月8日	88.5	31.5	3月1日
4月	15.9	南	4月20日	90.5	32.5	4月13日
5月	15.5	南南西	5月12日	100.0	78.5	5月12日
6月	11.4	北	6月6日	145.0	28.0	6月9日
7月	14.7	南南西	7月16日	369.5	119.0	7月16日
8月	11.5	北	8月26日	154.0	80.0	8月17日
9月	11.2	北	9月9日・9月25日	369.0	102.5	9月9日
10月	18.9	南南西	10月2日	76.5	23.5	10月2日
11月	14.4	北北西	11月27日	159.5	37.5	11月2日
12月	18.4	南南西	12月11日	133.5	117.5	12月11日